

私が「車いすの一級建築士」として、一般住宅だけでなくバリアフリー住宅・施設の設計を手掛けるようになったのは、遡ること19年前のこと。すべては私自身が2002年にバイクレース中の転倒事故で脊髄を損傷し、車いす生活になったことから始まりました。

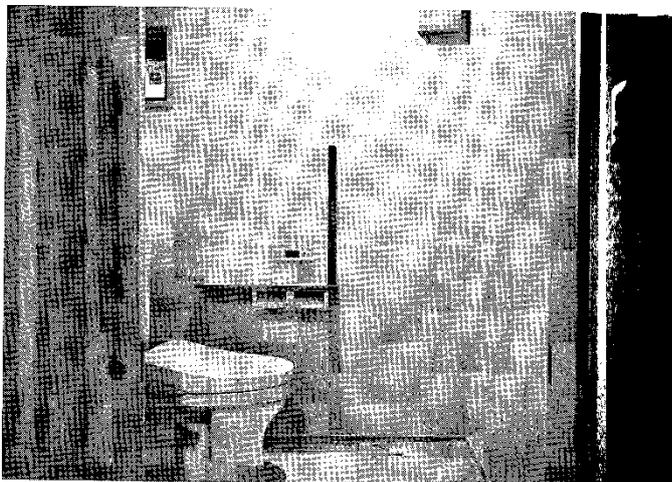
当時の私は39歳。1905年に愛知県名古屋市中で創業した歴史ある工務店・阿部建設の5代目後継者として多くのスタッフや職人たちを束ね、オーダーメイドの木の家づくりに勤しんでいました。

第一にバリアフリー住宅は、ADL（日常生活動作）とQOL（生活の質）の双方を高める設計であるべきです。ADLはほかの人の力を借りずに起床、食事、排泄、入浴、外出時の移動といった日常生活をどれだけできるかという指標。またQOLは、個人の幸福感や生きがいによって生活の質を測定する指標です。「その人らしく暮らせる家」をつくるには、これらをセットで考える必要があるのです。

ご家族も、突然障がいを負った当事者とのように向き合い、生活していけばいいのかわからず苦悩しています。実際に私も事故から2年程経ってから、「車いすのお父さんなんて恥ずかしいから」という理由で、子どもたちから授業参観に出席するのを反対されました。この時初めて、これだけ時が経っても家族は自分の障がいを受容できずにいることを知り、大きなショックを受けたことを覚えています。

また、玄関ドアの鍵を、カードキーやリモコンキーなどを用いる電子錠にすれば、鍵を差し込んで回すという動作が不要になり、さらに入りがスムーズになります。

暗証番号を入力して施錠・解錠するテンキー錠や、居室でスイッチ操作できるリモコンキーを選べば、障がい者・高齢者がひとりきりで家にいる時でも介護ヘルパーや来客を招き入れることができます。



長手方向に扉が開くトイレ

日々の体調が変わりやすい障がい者や高齢者の場合は、**寝室付近にトイレがあれば**具合が悪い時でも安心して過ごせます。

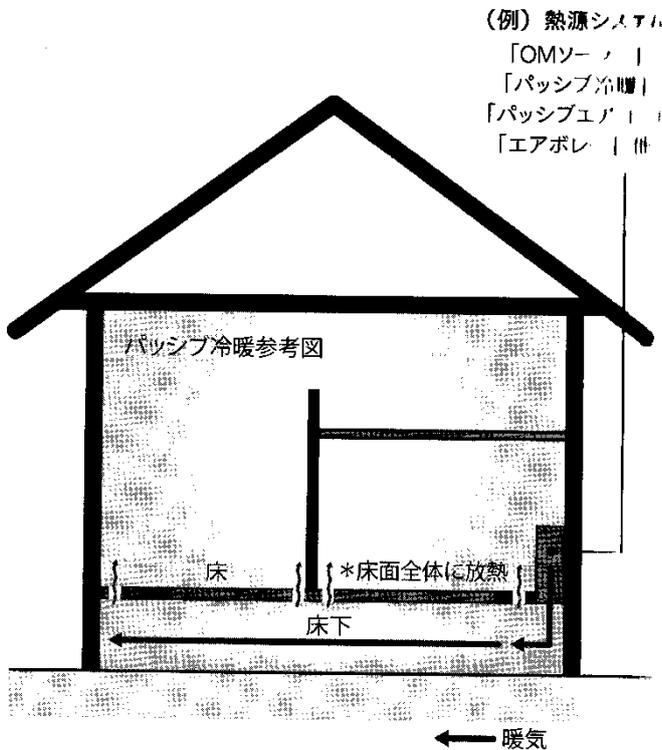
.....
予算や敷地に余裕がある場合や、既存のトイレの改修に費用かかりすぎる場合には、障がい者・高齢者用のトイレを新設し、ご家族用と別にするをおすすめしています。こうすることで排泄に時間がかかってもお互いに気兼ねなく、思い思いのタイミングでゆとり利用できます。

スペースを確保できるならば、**自室に専用トイレを設置**するのも一案です。トイレの使用が完結できれば、ご家族への気遣いが減り、自立した生活を送ることに繋がります。

近年、家を新築する際の条件のひとつとして「冬は暖かく、夏は涼しい家」を挙げる人が増えてきています。

特に、障がい者・高齢者は自律的に体温調節するのが難しく、体の一部が温度を感じない方もいます。私自身も下半身が麻痺しているため、上半身しか汗をかかず、下半身は温度を感じません。そのため、夏は常に熱中症になる危険性にさらされます。寒さに対しても同様であることから、「障がいのある人間にとって、温熱環境は生死を左右する」と言えるでしょう。

空気式床暖房とは？



- この本では、エアコンなどで床下に暖気を送り込んで空気を暖め、床を暖める暖房を床暖房と記載しています。
- 熱源には、さまざまな仕組みやシステムがあります。
- 建物の規模、形状に合わせて、コスト面も考慮の上最適な床暖房システムを提案しています。
- 床をムラなく暖めることで家中の室温のバリアフリーが可能となります。

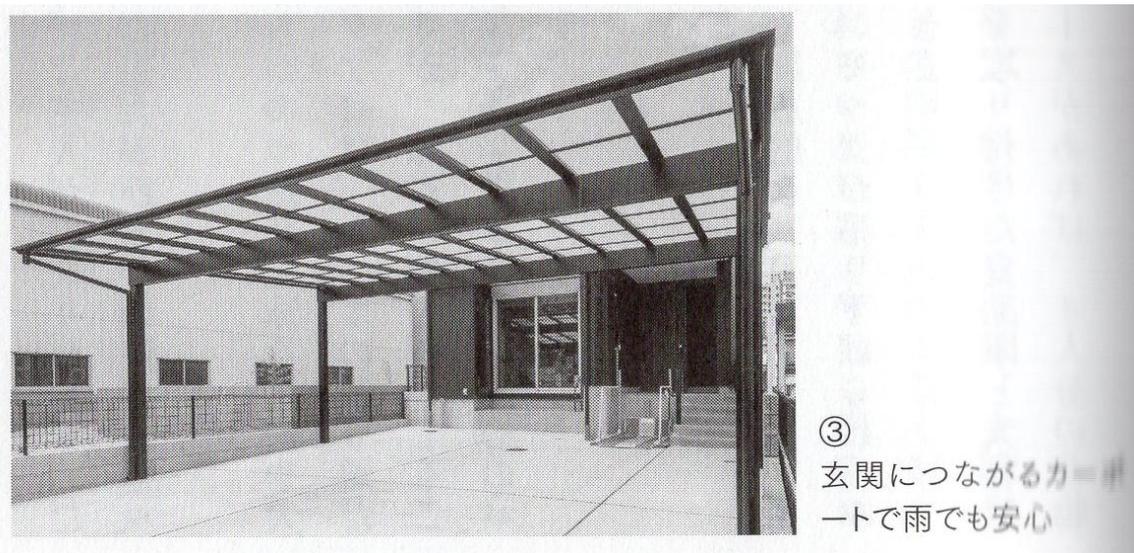
また近年では、台風や地震など突然の災害で停電となった時の備えとして、太陽光発電を導入する人も増えています。特に車いす生活者は、避難が必要な災害が起きてもバリアフリーなどの設備が整っていない避難所では生活できません。そのことから、普段から災害時でも自宅で過ごせるように備えておく必要があるのです。



⑤雨の日も濡れずに車と玄関を行き来できるカーポート

駐車スペースは、車いすを使うご主人の乗降に支障のない広さを確保し、雨の日でも濡れないようにカーポートを設置しました。駐車場から玄関までは、車いすを自走するのに最適とされる 1/12 勾配のスロープを上ります。ご主人は装具を取り付ければ歩行可能なので、自力歩行でも上れるように手すりを設置しました。玄関を含め、扉はすべて引き戸で統一。これらは天井のみにレールを取り付ける上吊りタイプで床に溝がなく、車いすでも安全に出入りできます。この家に住んでから、ご主人はひとりで単に乗って外出できるようになったそうです。

また室内外で車いすを使い分けているご主人のために、**玄関脇に乗り換えスペース**を設けました。ここは靴やコート、清掃道具などの土間収納も兼ねており、車いすも置いておけます。



③
玄関につながるカーポートで雨でも安心

またカーポートと玄関との間には段差が約 80cm あったため、長いスロープを避け、段差昇降機を設置しました。動線すべてに屋根があるので、天候を気にせず、ご主人ひとりで気軽に外出できます。

玄関には車いすの乗り換えスペースを設け、リモコンキーを身に付けていればボタンを押すだけで解錠できるタッチキー付きの引き戸をつけました。ご主人が出入りしやすいだけでなく、室内からでもリモコンでかぎを開閉できるので、ご主人がひとりの時でもヘル

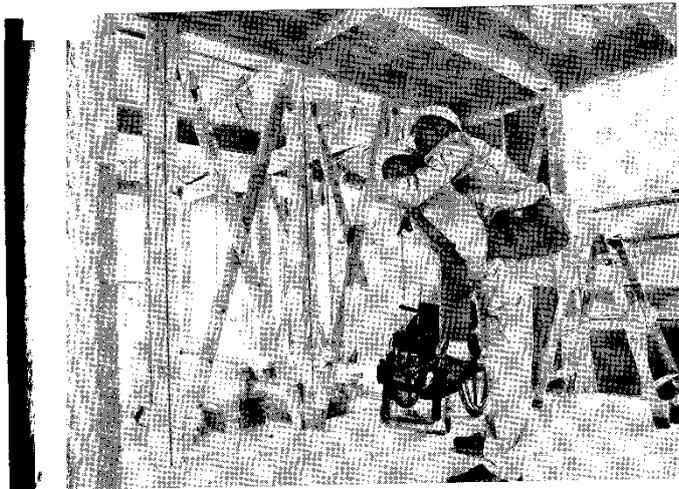
パーの出入りが可能です。

一貫して「木の家」をつくり続けてきた阿部建設は、木造建築のメリット・デメリットを熟知しています。木造建築は間取りの自由度が高く、RC造（鉄筋コンクリート造）や鉄骨造に比べて**建築コストが抑えられる**のが大きなメリットです。一方木造では柱や壁のない大空間をつくるために耐震性を確保するのが、RC造や鉄骨造よりも一般的に難しいという問題があります。

また車いすが通れるように廊下を広げようとする、通常は柱の位置を変えるなどの大規模な工事が必要になりますが、実は**車いすをコンパクト**にしたり、動線を真っすぐにしただけですべて問題ないといったケースもあります。こうした時に設計者が適切な見極めができるか否かで施工費にも大きな変動があるため、あらゆる専門的知識が必要とされます。

しかし、私は設計士であると同時に、家づくりの最終責任者でもあります。そのため施工中も基本的に数回は現場に向き、私の意図した空間になっているか確認します。

とはいえ、車いすの私は2階建ての住宅現場をひとりで見て回ることはできません。よって、スタッフや大工など**におんぶしてもらって各階を回る**こととなります。また、トイレや洗面所といった水まわりは、実際に車いすに乗って精査し、想定通りに便器に乗り移れるか、乗ったままでも物が取れるかといった項目を何度もテストします。



現場チェックの様子

周囲の車いす生活者

に話を聞くと、夫婦のどちらかが障がいを負ってしまったことで、お互いの精神的苦悩や疲弊が大きくなってしまったり、夫婦間での意見や性格の不一致が明るみに出たままになり、別居や離婚に踏み切ることも少なくありません。私たち夫婦も「一旦離れて冷静に考える時間を持ったほうが良いのでは」と考えたこともありました。

もうひとつ、車いすの建築士としての自分を受け入れる大きな足掛かりになったのが、漫画家である有賀リエさんとの出会いでした。有賀さんは、車いすの建築士・樹(いつき)と、その同級生であるつぐみの恋模様を描いた漫画『パーフェクトワールド』（講談社）の作者で、担当編集者を通じて私に取材協力を依頼されたのです。2014年の連載開始後、脊髄損傷者の直面する問題や、それを取り囲む人々の現実を丁寧に描いた同作は大きな反響を呼び、映画化やドラマ化も実現しました。

富士山登頂は、私が「いつか富士山に登頂してみたい」と語った新聞記事を目にしたテレビ局の撮影クルーから「ぜひそのドキュメンタリー映像を撮影したい」と依頼されたことがきっかけで挑戦することになりました。残念ながら1度目と2度目のアタックはもう少しのところで失敗に終わりましたが、車いすの改造を手掛けてくださった元世界グランプリライダーの高田孝慈さんや小関光弘さんをはじめ、たくさんの仲間に支えられながら、3度目にして悲願の初登頂を達成することができました。

車いすを手でこいで登るといことは想像を絶する過酷な道程であり、結果的には裾瘡の悪化という大変な代償を払いましたが、障がい者が夢を持つことの大切さや、すべての人が助け合いながら公平な社会を目指す「ノーマライゼーション」という考えを私なりに体現できたことから、何ひとつ後悔はありません。

またこの体験を通じて、異なる個性を持った一人ひとりが協力し合うことでチームに厚みが増し、大きな目標を達成できるということを体感し、独善的だった当時の私は目からウロコが落ちる想いでした。とはいえ、以降10年以上にもわたってこの裾瘡と格闘することになるろうとは、この時は知る由もありませんでした――。



コーンが置いてあることが多く、一人でいった場合はどけることが出来ない障がい者用の駐車場

村田　　まずはお互いにどのような情報が必要でそれをどのようなフォーマットで共有していくかというところからスタートする必要があると思います。あとは診療報酬が発生しないサービスを、どのように提供するかという課題もありますね。これに関しては、リハビリテーションの支援チームに一級建築士が在籍している横浜市総合リハビリテーションセンターの地域での取り組みが参考になるかもしれません。

阿部　　その取り組みは大変興味深いです。病院が主体となって困っている患者さんと専門知識を持った建築士やバリアフリーコーディネーターをつないでくれたなら、バリアフリー住宅はもっと発展すると思います。